

報道関係各位

2025 年 10 月 28 日

進化を続ける現場の安全を支えるアクティオオリジナルロングセラー商品
「クレーンモード切替装置 AATC[®]」搭載バックホー
累計導入台数 2,000 台突破

株式会社アクティオ

総合建設機械レンタルの株式会社アクティオ(本社:東京都中央区日本橋、代表取締役社長兼 COO:小沼直人、以下アクティオ)は、アクティオオリジナルロングセラー商品「クレーンモード切替装置 AATC[®]※1」搭載のバックホーが累計導入台数 2,000 台を突破しました。今後も本商品を通じてクレーン作業時の安全性を高め、よりよい現場環境作りに寄与いたします。



従来のクレーン機能付バックホー※2 は、ショベル(掘削)モードのままでもクレーン(吊り上げ)作業が可能のため、正しい手順を踏まずにクレーン作業を行うケースが多く見られました。近年では、人手不足の影響から機械の操作に不慣れなオペレーターが増加しており、クレーンモードに切り替えずに、吊り上げ作業を行い、機体のバランスを崩して転倒する事故が発生しています。また、オペレーターが運転席からクレーンモードへの切替状況を確認しづらいという課題もあり、安全面での改善が求められていました。

このような背景を受けて開発したのが、「クレーンモード切替装置 AATC[®]」です。クレーンフック部分に格納・未格納を検出するスイッチを搭載し、クレーンのフックが開放された瞬間に自動でクレーンモードに切り替わる仕組みを採用しました。クレーンモードでは、バケットのシリンダーが伸びきるとバケットが固定されるため掘削作業が行えません。さらに、クレーン作業から掘削作業に戻る際には、運転席内のスイッチを手動でショベルモードへ切り替えないと作業が出来ない設計にしました。これによりショベルモードでは掘削作業のみ、クレーンモードでは吊り作業のみが可能となり、意図しない誤操作を防止することで安全性を向上します。

※1 AATC:AKTIO Advancement Crane の略

※2 クレーン機能付バックホー:掘削作業と資材などの吊り上げ作業を1台で行えるバックホー

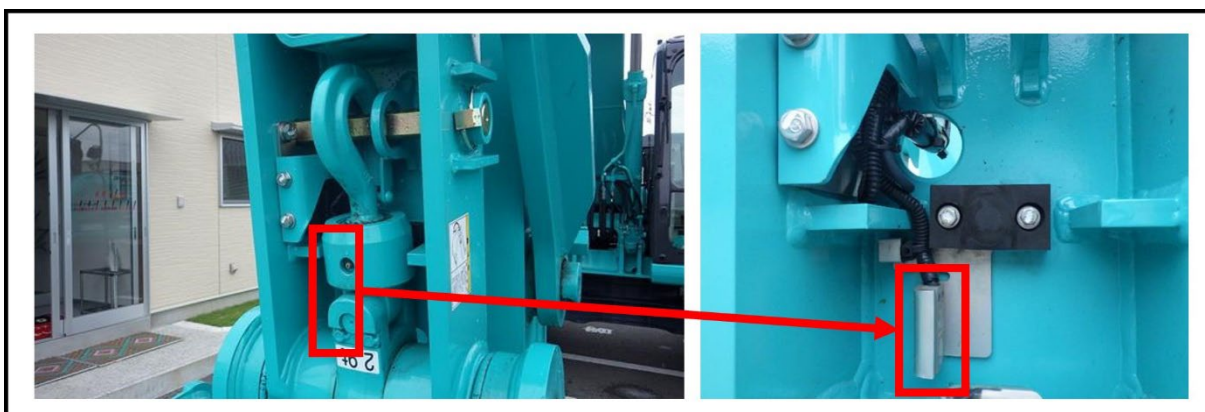
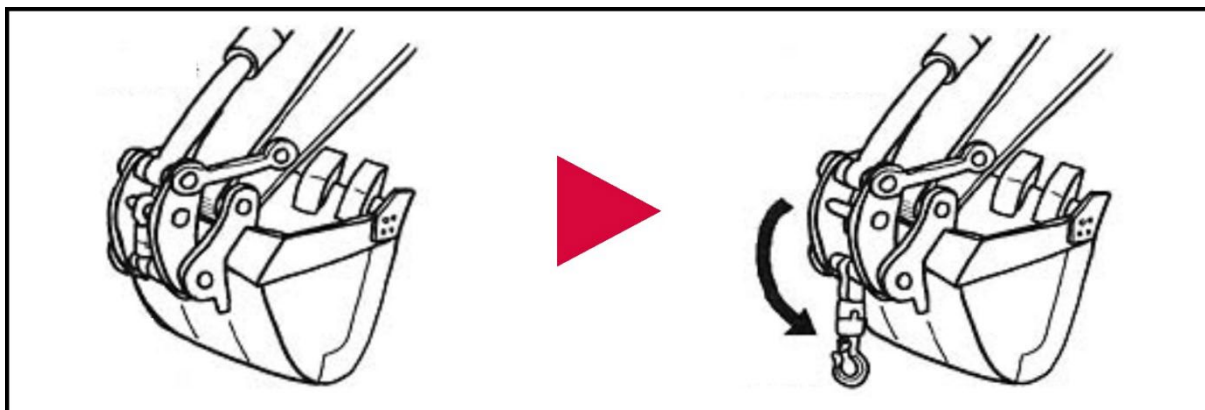
アクティオは今後も「レンサルティング」のノウハウを活かし、安全性を向上させる商品やサービスを提供していきます。

※本装置はクレーンモードへ切り替わる装置で、機体の転倒を防ぐ安全装置ではございません。使用にあたっては従来通り安全に注意してご使用ください。

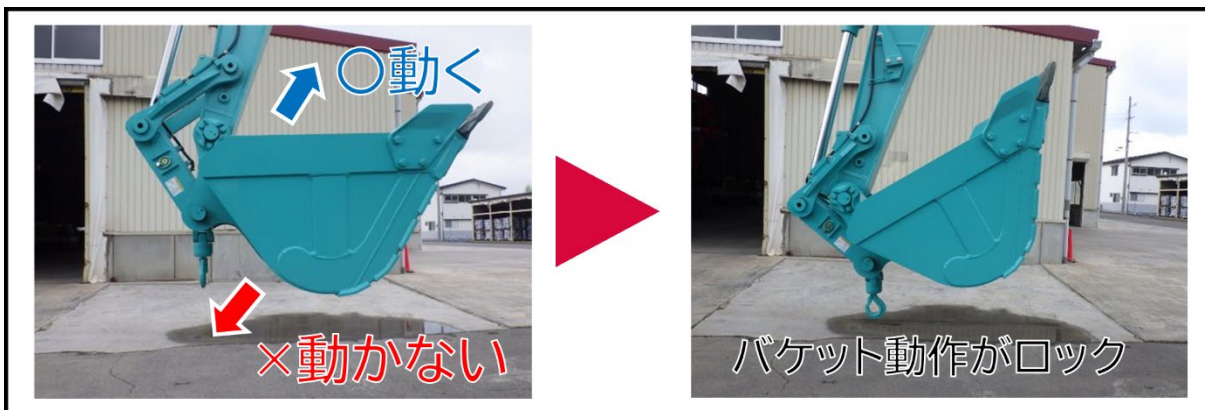
※保有する 0.14~0.7 tクラスのバックホーに搭載されていますが、全てのバックホーには搭載されておりません。

■「自動クレーンモード仕様バックホー」特長

①クレーンフック開放時に自動でクレーンモードに切り替わるスイッチを搭載(赤枠部分)



②クレーンモード時には、バケットが運転席側にのみ動き、バケットシリンダーが伸びきった状態で固定



③クレーン作業から掘削作業へ変更時は、クレーンフックの格納と、運転席で手動での切り替えが必須



■アクティオが展開する“レンサルティング”とは



アクティオのコンセプトである「レンサルティング」は「レンタル」と「コンサルティング」を合わせた造語で、商標登録しています。会長の小沼光雄は著書の中で次のように紹介します。『従来、建機の世界では「つくる」「売る」という要素が主だったところに、「知恵やノウハウをプラスして貸す」という新たな価値提案をビジネスとして行ったわけです』（算数とハートの経営 2014 年 幻冬舎）。現在の建設機械は、非常に高度化しており、せっきくの機能も、現場で最大限に活用することは難しくなっています。目的を果たすため、

状況に応じてどの機能をどのように使うのか。アクティオは単に機械を貸すだけでなく、専門的なノウハウを持ってサポートします。建設機械を熟知する専門レンタル会社だからこそ可能な、しかしレンタルの枠組みを飛び出した提案型のサービスがレンサルティング。時代とともに、その意義を拡大し、進化を続けています。

【アクティオ公式サイト】<https://www.aktio.co.jp/>

【アクティオ Facebook ページ】<https://www.facebook.com/aktio.jp/>

■本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社アクティオ 広報部 担当:成澤、深沢

TEL:03-6262-7867 FAX:03-6262-7982 e-mail:koho@aktio.co.jp